

畜産業の振興について

令和 8 年 8 月
農林水産部畜産課

目次

I 畜産業の概要

- 1 産出額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 家畜の飼育状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

II 主要家畜の生産振興

- 1 肉用牛の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 酪農の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 養鶏・養豚の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

III 資源循環型畜産の推進

- 1 飼料対策の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 2 良質堆肥の生産と有効利用の促進・・・・・・・・・・・・ 18

IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

- 1 家畜衛生の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 2 畜産物の安全性確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21



ひょうご農林水産ビジョン2035施策体系表における位置づけ

【めざす姿】

次代につなぐ環境と調和のとれた
ひょうご五国の農林水産業・農山漁村

【基本方向】

【基本方向1】
収益性の高い農林水産業の実現

【基本方向2】
にぎわいのある農山漁村の創出

【基本方向3】
県民とともに育む豊かな食と「農」の充実

【推進項目】

- 1 人と環境にやさしい農業の推進と地域の特色・立地を活かした農業の展開
- 2 需要に応える持続可能な畜産業の推進
- 3 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大
- 4 豊かな海と持続的な水産業の実現
- 5 ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開
- 6 食の安全を支える生産体制の確保

- 7 農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理
- 8 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出
- 9 農山漁村の防災・減災対策の推進
- 10 豊かな森づくりの推進

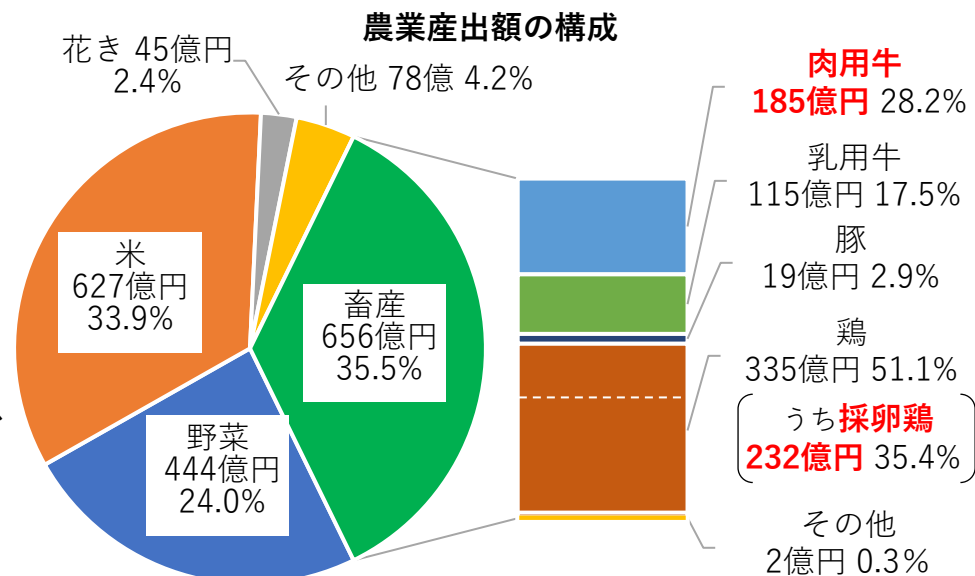
- 11 「農」と多様な分野との連携強化
- 12 県民とのつながりで育む食と「農」
- 13 県民への安定的な食料供給

 ：資料に掲載している施策項目

I 畜産業の概要

1 産出額

- 令和6年の本県の農業産出額1,850億円のうち、**畜産の産出額は656億円(35.5%)**で本県農業の主要部門
- 近畿の畜産産出額の63.0%で、京阪神都市圏における畜産物供給基地として重要な位置づけ
- 家畜別では、肉用牛が185億円(前年比99.5%)、乳用牛が115億円(同104.5%)、豚が19億円(同95.0%)、鶏が335億円(同81.5%)



※農林水産省「農業総産出額(R6)」

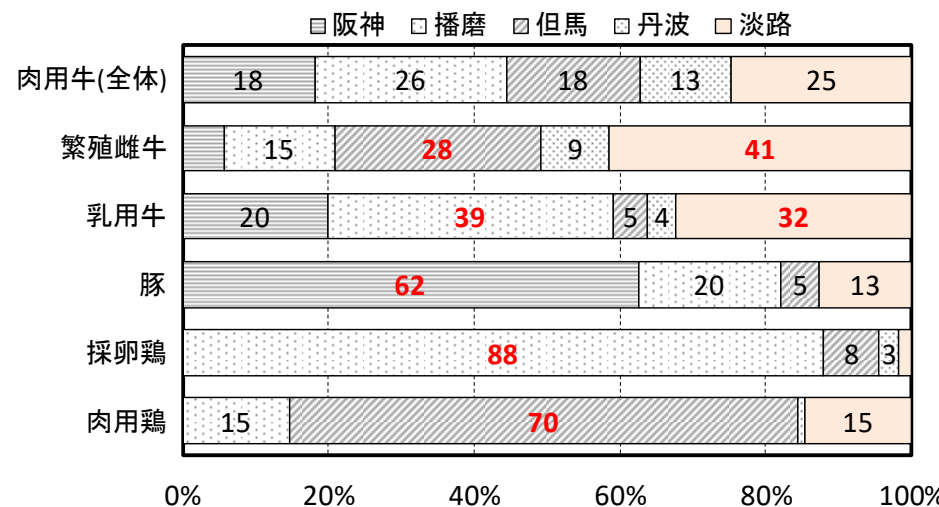
2 家畜の飼育状況

- 飼育戸数は肉用鶏を除いて減少傾向にあり、頭羽数は乳用牛及び鶏で減少傾向
- 主な飼育地は、**繁殖雌牛は淡路と但馬、乳用牛は播磨と淡路、豚は阪神、採卵鶏は播磨、肉用鶏は但馬**

家畜の飼育戸数及び頭羽数 <単位：戸、頭、万羽 ()の牛は前年比、豚・鶏は前々年比(%)>

区分	肉用牛	繁殖雌牛	乳用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
戸数	955 (97.8)	837 (96.5)	172 (93.5)	14 (87.5)	34 (79.1)	37 (115.6)
全国順位	10	10	12	33	19	10
頭羽数	58,900 (103.0)	18,700 (103.9)	11,100 (95.7)	24,100 (120.5)	528 (93.3)	195 (80.9)
全国順位	10	9	16	34	14	15
頭羽数/戸	61.7 (105.3)	22.3 (107.2)	64.5 (102.4)	1,721.4 (137.7)	15.5 (118.0)	5.3 (69.9)

家畜飼育頭羽数の地域分布



※ 農林水産省「畜産統計(令和8年2月1日現在)」

※ 採卵鶏は1,000羽以上の経営、肉用鶏は年間出荷羽数3,000羽以上の経営

※ 畜産課調べ(R7)

II 主要家畜の生産振興

1 肉用牛の振興

神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛の増頭や受精卵移植による肥育素牛^{もとうし}の増産を推進するとともに、但馬牛や神戸ビーフの歴史、魅力等の情報発信を充実

(1) 最近の動き

ア 但馬牛の枝肉価格と子牛価格

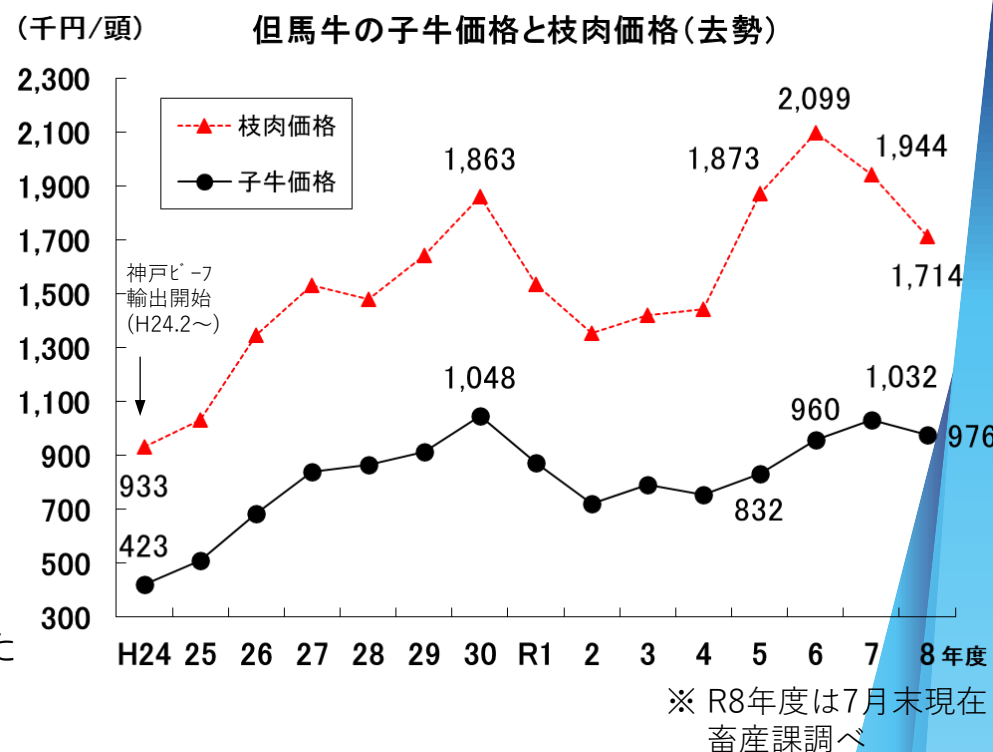
- 令和元、2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により下落
- 令和3年度以降は**国内外の経済活動の再開とともに回復に転じ、**高値傾向で推移**
- 令和7年度以降は**、物価高騰による消費者の節約志向の高まり等により**枝肉価格が下落傾向**

イ 但馬牛繁殖雌牛頭数の推移

- 令和6年度の**但馬牛繁殖雌牛の頭数**は高齢者の廃業等により、廃用が新規導入を上回り、13,577頭に**減少**
- 繁殖経営戸数は837戸(前年度比96.5%)と減少、1戸あたりの飼育規模は16.2頭(同103.8%)に拡大

但馬牛繁殖雌牛頭数

年 度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R17目標
繁殖雌牛	14,060	14,145	14,001	13,993	13,824	13,577	16,000
新規導入	1,805	1,844	1,681	1,711	1,621	1,519	—
廃用	1,227	1,759	1,825	1,719	1,790	1,766	—
前年比	+578	+85	△144	△8	△169	△247	—



II 主要家畜の生産振興

(2) 主な振興施策

ア 但馬牛繁殖雌牛の増頭対策

(ア) 新規参入、規模拡大の推進

- ・新規参入や規模拡大を促進するため、「**畜産参入支援センター**」を通じて、畜産利用が可能な土地情報や離農予定者の**牛舎等情報を調査・集約し、希望者に紹介**するなど 総合的に支援

(イ) 繁殖雌牛の導入及び牛舎整備の支援

- ・規模拡大や新規参入を推進するため、優秀な**繁殖雌牛の導入や牛舎・機械等の整備を支援**
- ・新規参入者等に分娩間近の雌牛を斡旋する妊娠牛供給牧場(神戸市北区)の運営を支援

イ 神戸ビーフの増産対策

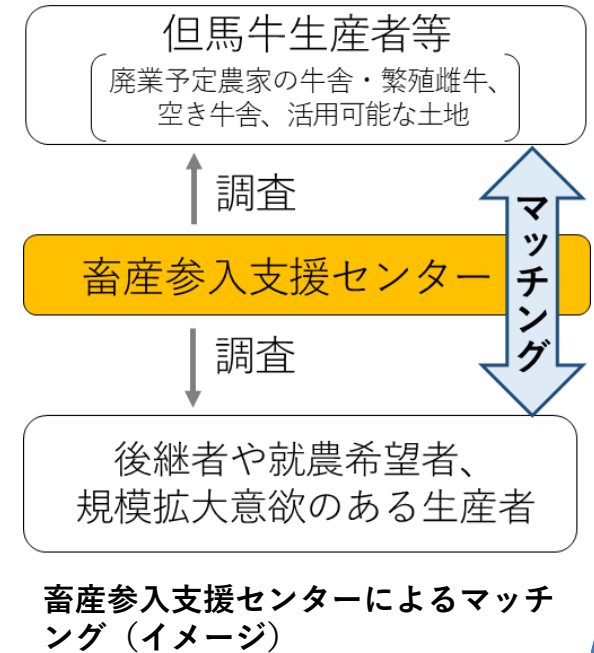
(ア) 但馬牛受精卵移植による「神戸ビーフ」供給力強化

- ・**乳用牛等に但馬牛受精卵を移植**して、神戸ビーフを増産
- 受精卵移植による但馬牛生産状況

年次	R1	R2	R3	R4	R5	R6
頭数	299	366	434	488	426	424

(イ) 子牛の生産拡大

- ・県内農家の繁殖成績データ等を収集・分析し、**本県の平均分娩間隔が長期化傾向にある要因を調査**することで、**分娩間隔短縮に向けた対策を検討**



酪農家で受精卵移植により生まれた
但馬牛子牛

II 主要家畜の生産振興

7

(ウ) 神戸ビーフ認定頭数と認定率の向上

- 県が開発した「但馬牛肥育マニュアル*」の定着や但馬牛の改良により、**近年の神戸ビーフ認定率は90%超**

* 肥育素牛の月齢や栄養状態に適した飼料給与方法等をマニュアル化

たじまぎゅう

【但馬牛と神戸ビーフの定義（神戸肉流通推進協議会）】

県内で生まれ、県内で肥育した^{たじまうし}但馬牛で、かつ県内のと畜場で処理した牛肉を^{たじまぎゅう}但馬牛、その中で一定の基準を満たすものを神戸ビーフと定義

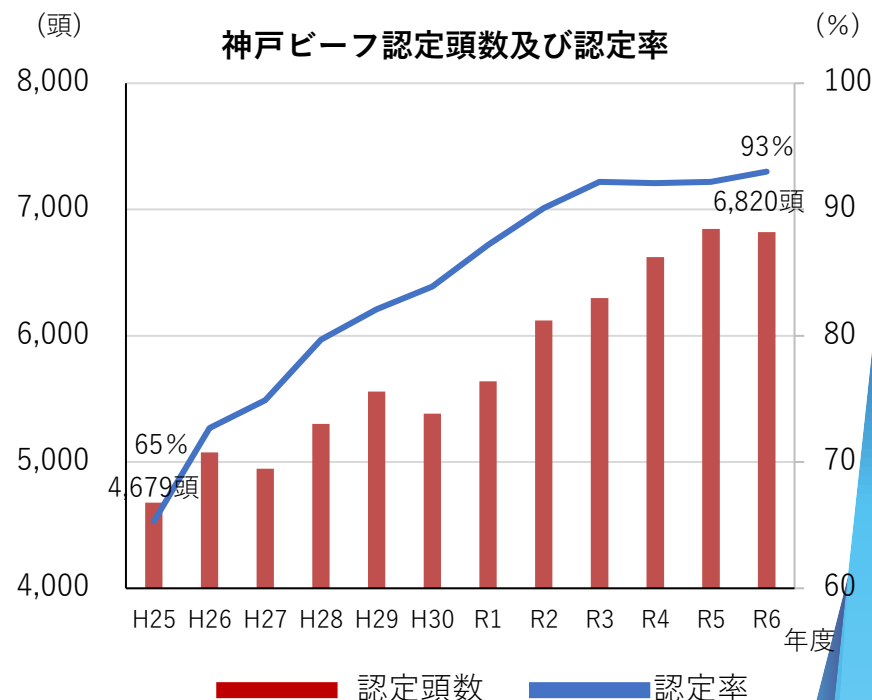
歩留等級	「A」 又は 「B」											
肉質等級	1	2	3		4			5				
脂肪交雑	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ブランド		28～60ヶ月齢				雌:270～499.9kg、去勢:300～499.9kg 「神戸ビーフ」						
		「但馬牛（ぎゅう）」										

ウ 但馬牛の改良

- 令和4年度からゲノム情報を活用した改良に着手し、**但馬牛固有の遺伝的多様性の確保と経済性に優れた種雄牛づくりを推進**
- ゲノム情報を分析し**但馬牛が15グループに分類**できることを確認でき、**分類結果を踏まえ種雄牛づくりを進め遺伝的多様性を確保**
- ゲノム情報から算出した**産肉性・美味しさ*¹の育種価*²（ゲノム育種価）**により、**早期に能力を把握し、種雄牛づくりを加速化**

*¹ 産肉性：枝肉重量や脂肪交雑等、美味しさ：美味しさ成分であるモノ不飽和脂肪酸割合等

*² 親が子に伝える遺伝的能力を数値で表した指標



ゲノム育種価を活用し、北義谷等希少系統種雄牛の後継牛作出を加速化

II 主要家畜の生産振興

エ ブランド強化と需要拡大

(ア) 但馬牛・神戸ビーフの情報発信の充実

- ・「**県立但馬牧場公園**」(新温泉町)では、但馬牛を学び、触れ、食することができる体験プログラムにより、世界農業遺産をはじめとする但馬牛の歴史や魅力を発信
- ・「**神戸ビーフ館**」(新神戸駅(コトノハコ神戸))では、神戸肉流通推進協議会ほか関係団体とともに神戸ビーフの歴史や定義・美味しさなどの魅力を発信
- ・「**兵庫県牛肉マイスター***」から但馬牛や牛肉加工について学ぶことができる体験プログラムを開催し、但馬牛や食肉産業の魅力を発信

* 牛枝肉を部分肉に加工する技術と知識を持ち、若手技術者に指導できる育成力があり、試験に合格した者を兵庫県食肉卸事業協同組合が認定



県立但馬牧場公園におけるプログラム体験の様子

(イ) 神戸ビーフの輸出促進

- ・ **神戸ビーフの輸出量は**令和7年度**48t**(前年度比102%)となった。
- ・ **42カ国・地域、580店舗**の神戸肉流通推進協議会の指定登録店(レストランや精肉食肉販売店)で**販売**
- ・ 食肉センターを中心としたコンソーシアムによるターゲット国での**神戸ビーフプロモーション**を実施

神戸ビーフの輸出状況

(t)

輸出先	EU・英国	米国・カナダ	香港	台湾	その他*	合計
R4年度	21.7	14.2	9.3	8.5	24.1	77.8
R5年度	19.8	15.8	3.8	6.1	23.0	68.5
R6年度	21.4	12.6	3.8	3.7	5.4	47.3
R7年度	19.1	11.4	3.5	1.9	12.5	48.4

* マカオ、タイ、シンガポール、ベトナム、ロシア、フィリピン、UAE、メキシコ、オーストラリア、カタール、サウジアラビア、マレーシア、インドネシア

※畜産課調べ

II 主要家畜の生産振興

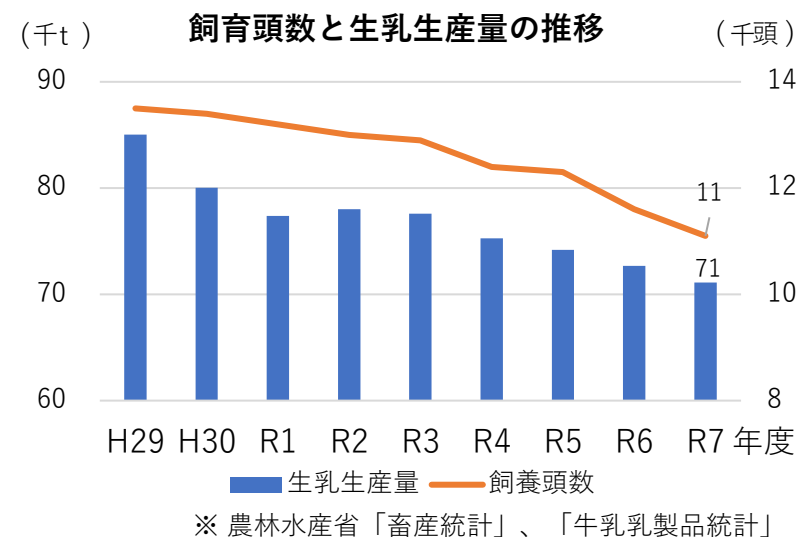
2 酪農の振興

飼料価格の高止まりや酷暑化などにより厳しい経営が続く中、生産性の高い牛群への改良やスマート機器等の導入を進め、収益性の向上と生産基盤の確保を図るとともに、県産牛乳・乳製品の需要を拡大

(1) 最近の動き

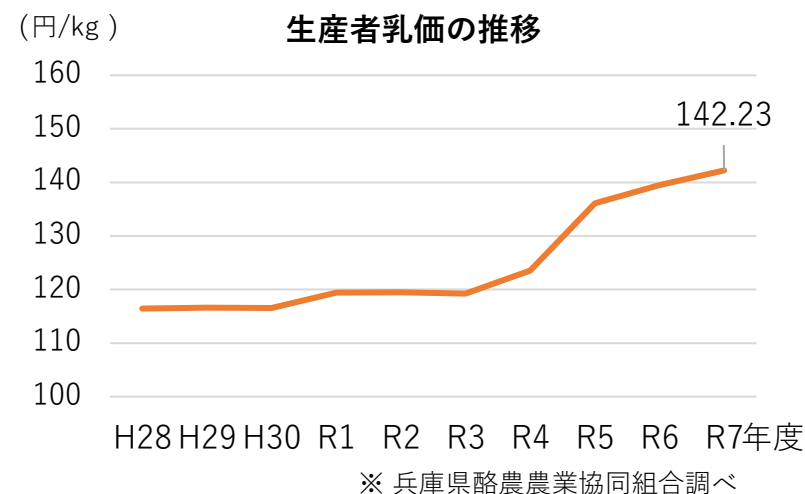
ア 飼育動向

- 生産者の高齢化や飼料価格高騰による廃業が続き、令和7年度の**飼育頭数**は11,100頭(前年度比95.7%)、**戸数**は172戸(同93.5%)に**減少**したが、1戸あたりの飼育規模は64.5頭(同102.4%)に増加
- 令和7年度の**生乳生産量は**71,118t(同97.8%)と**やや減少**(全国の生乳生産量は740万tとほぼ前年並み(同100.5%))
- 猛暑や飼料高騰で伸び悩んでいた1頭あたりの**平均生乳生産量は**、令和7年度8,477kg(同102.5%)と**4年ぶりに改善**



イ 需給及び価格動向

- 令和7年度の全国の牛乳等飲用向けの処理量は、値上げの影響により需要が伸び悩み、378万tとやや減少(前年度比98.9%)し、需給調整の役割を担うヨーグルトやチーズ向け等の加工用は357万tにやや増加(同101.9%)
- 県内の生産者乳価は**、飲用向けが令和4年11月と令和5年8月に各々1kgあたり10円値上げされ、令和7年8月にも1kgあたり4円値上げされたことなどに伴い、**142円台に上昇**(令和3年度比119.3%)



II 主要家畜の生産振興

(2) 主な振興施策

ア 生産基盤の強化

(ア) スマート酪農の推進

- ・ **労働負担の軽減や生産性の向上、個体管理の徹底を図るため、センシング機能*1を備えた搾乳ロボット*2等のスマート機器の導入を支援**
- ・ 大規模農場を中心に導入が進む

年度	農場数	導入機器
R6	22	大型扇風機、自動細霧装置*3、
R7	24	散水システム 等

- * 1 センサー等の検知器を用いて温度・振動・位置・生体情報等を計測し、デジタルデータとして取得、活用する機能
- * 2 搾乳の都度、乳量・乳成分・体重・体温(乳温)などの情報をモニターして、適切な個体管理が可能
通常1日2回行う搾乳作業を24時間自動で適時行うことができ、搾乳量の増加と大幅な省力化を実現
- * 3 温湿度センサーが感知すると、噴射される細霧で牛舎・牛体を冷やすとともに、過度な温度上昇を抑え、家畜の体調管理や従業員の負担を軽減

(イ) 飼育環境の改善

- ・ 中小規模農家を中心に**牛床マット**や**ロストル***の導入を推進

- * つなぎ式牛舎での乳牛の大型化に対応して後肢の側溝への脱落を防止するための金網

年度	農場数	導入資材
R6	20	牛床マット、ロストル、
R7	12	飼槽の改修 等



常時体温が分かる牛の胃内留置型センサーにより、分娩予測や体調変化を迅速に把握



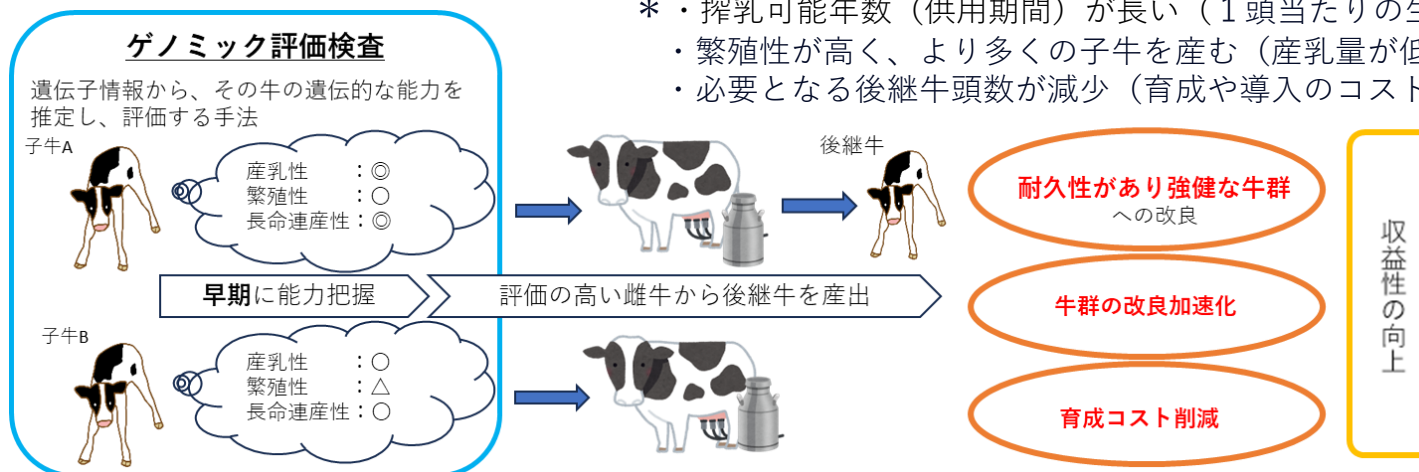
後足の脱落を防ぐためのロストル

II 主要家畜の生産振興

(ウ) 生乳の生産性向上

- ・ **ゲノミック評価検査**を支援し、産乳能力に加え、“**長命連産**”能力*を重視した**収益性の高い牛群への転換を推進**

* ・搾乳可能年数（供用期間）が長い（1頭当たりの生涯生乳生産量の増加）
 ・繁殖性が高く、より多くの子牛を産む（産乳量が低い期間が短い）
 ・必要となる後継牛頭数が減少（育成や導入のコストの低減）



- ・ 近年の**酷暑化**による乳牛の生乳生産量や繁殖成績の低下等に対応するため、淡路農業技術センターにおいて、**短毛となる遺伝子を持ち、暑熱ストレスに強いとされる「スリックタイプ・ホルスタイン牛（スリック牛）」**の生産性を検証中



スリック牛と一般牛の尾部の被毛

【酪農ヘルパーからの新規就農】

- ・ 休暇を取る酪農家等に代わって牛の飼育管理を行う「酪農ヘルパー」として勤務した農場に令和6年度、第三者継承で就農（神戸市西区）
- ・ 学生時代の農業体験をきっかけに酪農に興味を持ち、国内外で経験を積んだ後、ヘルパーとして8年間研鑽
- ・ 現在2人体制で搾乳牛33頭など計45頭を飼育し、年間約28万kgの生乳を出荷
- ・ 就農後はコスト削減と乳質改善に取り組みつつ経営を安定化
- ・ 今後は6次産業化や研修の受入れによる人材育成も視野に、地域酪農の発展を目指す



II 主要家畜の生産振興

12

(エ) 付加価値を高める取組

- 兵庫県但馬牛受精卵移植協議会と連携して、酪農家41戸が**受精卵移植により**全国的にも**価格面で有利な但馬牛子牛を生産**

県内酪農家での但馬牛受精卵移植実施状況 (R8.5月現在)

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7
戸数	16	24	25	34	40	41

- 6次産業化の取組として**、酪農家11戸が牧場に併設する店舗やレストラン等で**チーズやジェラートなどを製造、販売**

イ 県産牛乳・乳製品の需要拡大

(ア) 酪農の理解醸成活動(ふれあい体験授業「もう～もう～スクール」)

- 酪農家が学校に出向き、牛体の構造や子牛の出産について模型を用いた講義や搾乳及びバター作り体験を提供**することなどを通じて生徒らと交流
- 令和7年度は5校283名が参加

(イ) ひょうご食品認証制度の活用

- ひょうご食品認証制度を活用し、県産牛乳・乳製品の需要を拡大

県内乳業メーカーにおける認証状況 (R8.6月現在)

	乳業メーカー	牛乳	ヨーグルト	プリン
品目数	(株)共進牧場	3	1	
	丹波牛乳(株)	3	10	
	淡路島牛乳(株)	2	4	2

【牛乳工場見学】

淡路島牛乳(株)では、製造ラインを間近で見学し、島内で盛んな酪農の歴史を学習できる



見学者数

R 6年度 約 350名

R 7年度 約 650名

来場者数の増加を通じて、島内産牛乳・乳製品の認知度向上につなげている



【牛乳でスマイルプロジェクト】

農林水産省と(一社)Jミルクが推進する「牛乳でスマイルプロジェクト*」において、甲南女子大学の学生が考案したレシピが複数紹介されている

牛乳を料理に、手軽に取り入れることができる



甲南女子大学考案
「牛乳フルーツ寒天」

*牛乳・乳製品の消費拡大を目指す官民共同の取組 (QRコード参照)



II 主要家畜の生産振興

13

3 養鶏・養豚の振興

鶏卵・鶏肉・豚肉の生産においては、飼料用米や食品由来のリサイクル飼料を活用するなど、高品質で個性・特長ある畜産物の生産を推進

(1) 養鶏の振興

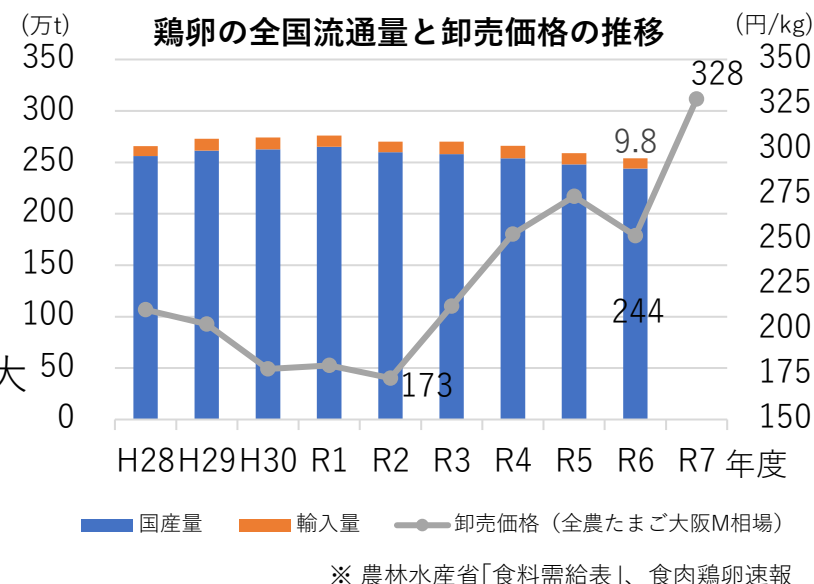
ア 採卵鶏の最近の動き

(ア) 飼育動向（令和7年度）

飼育戸数は34戸(前々年度比79.1%)、**羽数は**528万羽(同93.3%)に**減少**した一方、1戸あたりの飼育規模は15.5万羽(同118.0%)に拡大

(イ) 需要及び価格動向

- ・ 全国の鶏卵の流通量は250万t/年程度で、国産は96%
- ・ 全国的な鳥インフルエンザ発生に伴う殺処分の増加等により供給不足の傾向にあり、**卸売価格は高値で推移**



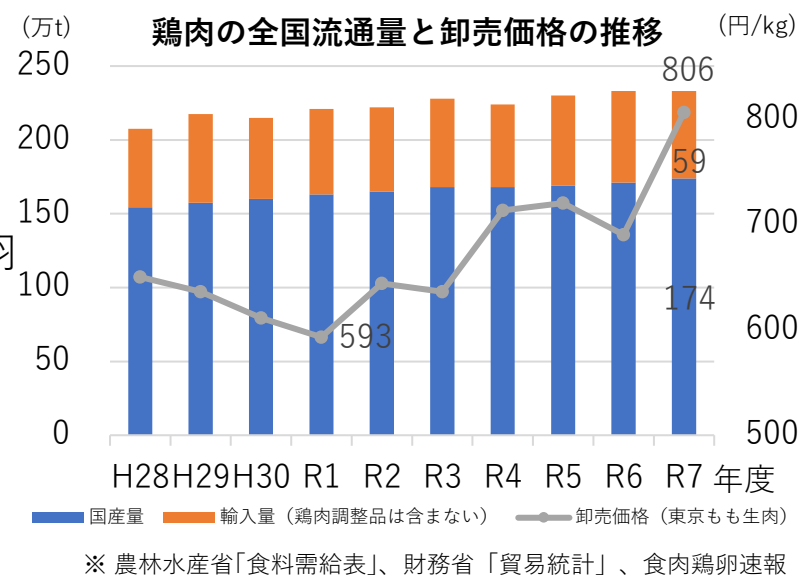
イ 肉用鶏の最近の動き

(ア) 飼育動向（令和7年度）

- ・ **飼育戸数は**37戸(前々年度比115.6%)に**増加**したが、**羽数は**195万羽(同80.9%)、1戸あたりの飼育規模は5.3万羽(同69.9%)に**縮小**

(イ) 需要及び価格動向

- ・ 全国の鶏肉の流通量は200万t/年を超えて増加傾向で、国産は74%
- ・ 健康志向の高まりや物価高騰に伴う牛肉や豚肉の代替により需要が高まり、**卸売価格は高値で推移**



Ⅱ 主要家畜の生産振興

ウ 主な振興施策

(ア) 個性・特長を活かした鶏卵・鶏肉の高付加価値化

- ・ **県産飼料用米等の給与**や平飼いなどの**アニマルウェルフェア等にこだわった**様々な個性・特長を持つ**鶏卵・鶏肉**をひょうご食品認証制度において**認証し、高付加価値化を推進**

ひょうご食品認証制度を活用した鶏卵・鶏肉 (R8.7月現在) ※ 実品目数18

	鶏卵			鶏肉	
特長	飼料*1	平飼い*2	栄養*3	長期飼育	無薬飼育*4
品目数	13	4	7	1	1

* 1 飼料用米など特長のある飼料を給与

* 2 鶏をケージに入れずに放し飼い

* 3 ビタミンEなど特定の成分が豊富

* 4 抗生物質及び合成抗菌剤を無使用

(イ) 海外向けの需要拡大

①鶏卵

- ・ 日本食文化が浸透し、卵かけご飯などで生卵の需要が増加している香港における県産鶏卵「ひょうごの穂々笑実」のPRを支援

県産鶏卵の輸出状況 (t)

年次	R4	R5	R6	R7
香港	112	100	141	672
シンガポール			60	70
その他*				79

* パラオ、アメリカ(グアム)、ミクロネシア

②鶏肉

- ・ 令和7年に県内1施設が約197 t 輸出* (前年比101%)

* 香港、ベトナム

【平飼いによる鶏卵生産】

鶏舎内を自由に動き回れる鶏の「平飼い」農場では、鳥インフルエンザ等の発生リスクが低い時期に、防疫対策に配慮しながら鶏を屋外で自由にし、鶏のストレス軽減や健康増進に努める農場もある

飼料には昆布やワカメ等を配するなど飼育管理へのこだわりや品質、美味しさが評価され、付加価値の高めて販売

ふるさと納税産品として扱われるものもある



平飼い養鶏 (南あわじ市)

【(株)印南食品の親鶏の唐揚げ 最高金賞に】

食品スーパーのマルアイ (加古川市) が、(株)印南食品 (加古川市) で生産された親鳥 (採卵鶏) の鶏肉を材料にした唐揚げを開発

日本唐揚協会が開催する中日日本スーパー総菜部門で出品32社中トップとなる最高金賞を受賞
通常の唐揚げはブロイラー (肉用鶏) を用いるのに対し、親鶏を使用した貴重な取組



親鶏のムネ肉と唐揚げ

II 主要家畜の生産振興

(2) 養豚の振興

ア 最近の動き

(ア) 飼育動向 (令和7年度)

- ・ **飼育戸数**は14戸(前々年度比87.5%)と **やや減少**、
頭数は 24,100頭(同120.5%)と **増加**
- ・ 1戸あたりの飼育規模は1,721頭(同137.7%)と拡大
(令和6年度は農林業センサスの実施年のため調査未実施)

(イ) 需要及び価格動向

- ・ 全国の豚肉の流通量は170～180万t/年で、約半分が国産
- ・ **卸売価格は**、平成25年度以降概ね500円/kg台前半で推移し、令和4年度以降は物価高騰に伴う牛肉から豚肉への需要のシフト等を背景に **上昇基調が継続**

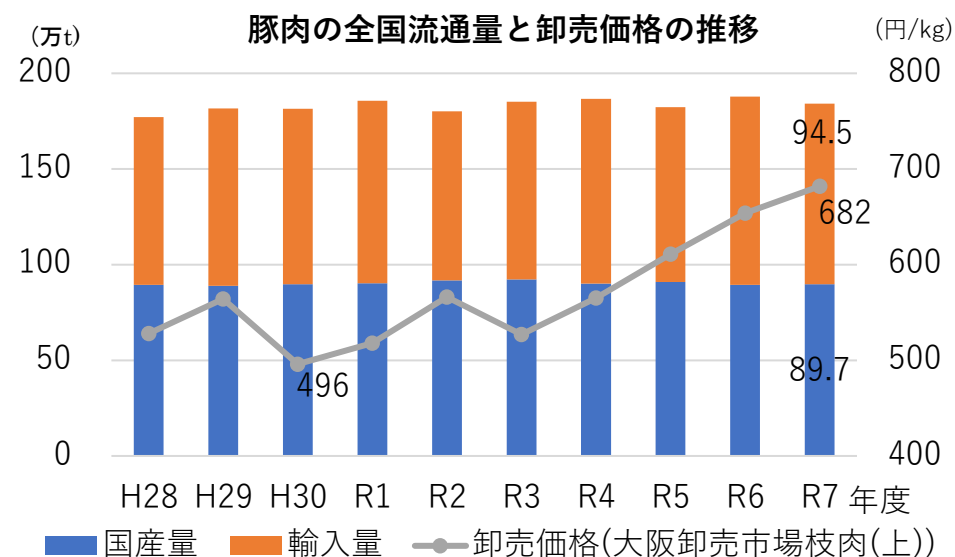
イ 主な振興施策

(ア) ひょうご雪姫ポークの普及推進

- ・ 「ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会」と連携して、県が技術開発した肥育後期にでんぷん含量の高いパンや麺類等を含む **エコフィード***を給与した霜降り豚肉「ひょうご雪姫ポーク」の普及を推進

* 食品製造過程の副産物や余剰食品などを原料にして加工処理したリサイクル飼料

- ・ 現在、2農場で年間約200tが生産され、精肉店やレストラン等の9店舗で提供



※ 農林水産省「食料需給表」、農畜産業振興機構、畜産課調べ



豊かな霜降りの「ひょうご雪姫ポーク」



【「ひょうご雪姫ポーク」の食育授業】

たつの市内の小学校で5年生31名を対象に、生産者が講師となり、ひょうご雪姫ポークを用いた食育授業（ソーセージ作り体験）を実施



III 資源循環型畜産の推進

持続可能な開発目標(SDGs)に関わる取組の一環として、耕畜連携による自給飼料の生産や畜産堆肥のほ場への還元等を進めることにより、飼料自給力の向上と資源循環型畜産を醸成

1 飼料対策の推進

(1) 最近の動き

ア 飼料の価格動向

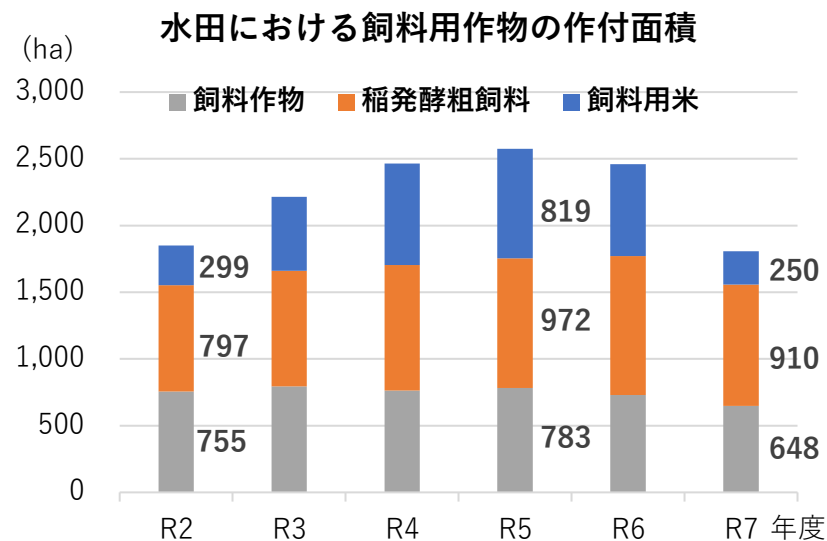
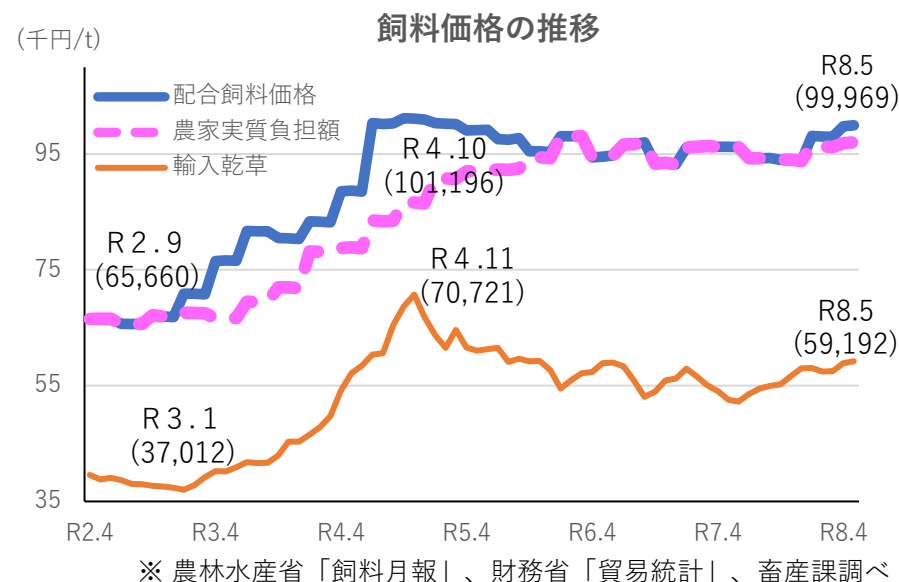
- ・ 配合飼料*¹価格は令和2年末から、粗飼料*²価格は令和3年半ばから上昇
- ・ **配合飼料は**、価格上昇時、配合飼料価格安定基金の発動により畜産経営への影響を緩和しているが、**農家実質負担額は令和4年度以降高止まり**
- ・ 令和5年度第3四半期以降発動が止まっていた配合飼料価格安定基金は、令和7年度第4四半期以降再発動
- ・ **粗飼料は**、価格安定制度がなく、**価格の高騰が直接的に経営に影響**

* 1 穀類(とうもろこし、こうりゃん等)、大豆油かす、ふすま、米ぬか等があり、エネルギーやたんぱく質が豊富

* 2 乾草、サイレージ、わら類等で、繊維質やミネラルなどが豊富

イ 自給飼料の作付動向

- ・ 水田における**飼料用作物の作付面積は**、令和7年度飼料用米は250ha(令和3年度比45%)、稲発酵粗飼料は910ha(同105%)と**米価高騰に伴い減少**



III 資源循環型畜産の推進

(2) 主な振興施策

ア 飼料価格高騰への対応

- ・ 飼料の価格高騰に対する **一時支援金の措置**や**飼料増産に必要な機械等の導入を支援**

イ 耕畜連携による飼料作物の作付拡大

- ・ 飼料自給力を高め、地域内での資源循環を進めるため、**コントラクター組織や集落営農組織等と連携を図り、水田を活用した飼料作物の作付けを推進**
- ・ 遅刈り稲発酵粗飼料*等、**新たな飼料生産を行う実証ほの設置を支援**

* 稲の穂や茎葉を丸ごと刈り取り乳酸発酵させた飼料で、遅刈りによりビタミンA含有量が低く、肉用牛でも輸入稲わらとの代替が可能

【メタンガス発酵副産物である消化液（液肥）を活用した耕畜連携の取組】

(株)箸荷牧場(多可町)では、飼育する約500頭の乳用牛から発生する排せつ物を醗酵してメタンガスを生産し、バイオガス発電を行うとともに、副産物である消化液*を、地元や隣接する市のは場に散布して、主食用米や稲発酵粗飼料の栽培に活用し、耕畜連携に取り組んでいる。

* メタンガス発酵後に残る液体であり、臭気が抑えられており、堆肥肥料成分が多く含まれているため液肥として利用可能



バイオガス発電施設（写真左）と
ほ場への消化液の散布（写真右）

ウ 但馬牛の放牧推進

- ・ **耕作放棄地やスキー場等で但馬牛を放牧**して、野草等飼料資源の有効活用と放棄地等の景観を保全
- ・ 令和6年度は323haで1,081頭を放牧

III 資源循環型畜産の推進

2 良質堆肥の生産と有効利用の促進

(1) 最近の動き

- ・「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、家畜排せつ物管理の適正化を推進
- ・家畜の飼育規模拡大には、堆肥の円滑な処理・利用が更に必要

(2) 主な振興政策

ア 良質堆肥の生産

- ・家畜排せつ物を堆肥として円滑に農地に還元するための**堆肥保管施設やペレット化機械、堆肥散布機の導入を支援**
- ・良質堆肥の生産技術の普及定着と生産意欲の向上を図るため、講習会や**堆肥共励会**を開催

イ 堆肥利用の推進

- ・肥料価格の高騰を受けて耕種農家における堆肥の需要が高まっているため、「兵庫県堆肥マップ*」を通じて、県内の**堆肥生産者と耕種農家のマッチング**を促し、地域内外における堆肥の利用を推進

* 県内の堆肥生産施設を地域ごとにリスト化したもの

(公社)兵庫県畜産協会が供給者名、所在地、連絡先、原料、成分含量、供給形態等の情報をホームページで公開

【良質堆肥生産による地域循環型農業】

(株)丸尾牧場(赤穂市)では、みどりの食料システム法に基づくみどり認定を活用した低利融資を受けてブローア付き堆肥調整保管施設*を整備

自社の乳用牛約700頭分の排せつ物から年間約3,200 tの堆肥を生産し、自社の牧草や飼料用稲の栽培に利用するだけでなく、周辺の営農組合等へ約94ha分の堆肥を販売

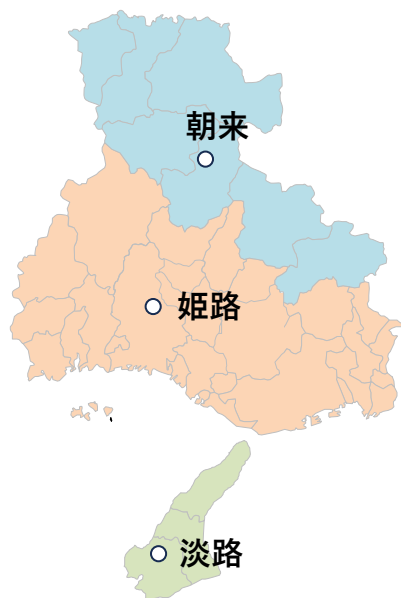
* 床下の配管から堆肥へ空気を送り込んで強制的に酸素供給することにより、好気性微生物による分解・発酵が促進され、臭気が少なく良質な堆肥を効率よく生産可能



ブローア付き堆肥調整保管施設

IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

- ・ 県下に3カ所ある家畜保健衛生所において、**高病原性鳥インフルエンザ、豚熱並びに口蹄疫等の重大家畜伝染病の発生に備えた危機管理体制を強化、慢性疾病の発生予防と清浄化を推進**
- ・ 生産農場における衛生管理指導や動物用医薬品等の適正使用等を通じて、**畜産物の安全・安心の確保を推進**



家畜保健衛生所の位置図

家畜保健衛生所（3カ所）
職員48名うち獣医師45名

【衛生課】

- ・ 子牛の育成指導など家畜の生産性向上
- ・ 薬事、獣医事に関する診療施設等の指導

【防疫課】

- ・ 家畜伝染病の発生予防のための定期検査
- ・ 重大家畜伝染病の発生に備えた体制整備

【病性鑑定課】

- ・ 家畜の疾病診断と対策指導

家畜保健衛生所の組織図

1 家畜衛生の向上

（1）重大家畜伝染病への対応強化

ア 発生予防対策

- ・ 家畜保健衛生所が農場へ巡回して、**飼養衛生管理基準の遵守指導**を行うほか、**早期通報の徹底等**により注意喚起を強化
- ・ 国内で発生が続く豚熱対策として、令和3年3月以降、**飼育豚へのワクチン接種や野生いのししへの経口ワクチン散布を継続**し、養豚場での発生を防止

IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

イ 発生に備えた対策

- ・ 迅速な防疫措置を行うため **民間委託による防疫資材の保管・配送体制を整備**するとともに、**防疫作業の民間委託**の推進、**重大家畜伝染病に関する防疫訓練**、**動員者に対する説明会の開催**、**発生時のマニュアルの見直し**などにより、危機管理体制を強化

【重大家畜伝染病の発生に備えた実践的な防疫訓練】

- ・ 令和7年9月に大規模養鶏場での高病原性鳥インフルエンザ発生を想定した集鳥ラックとコンテナを用いた防疫訓練を実施
- ・ 県内で3年ぶりに発生した高病原性鳥インフルエンザ(1例目:25万羽、2例目:15万羽)では、防疫訓練でおこなった手法を用いて殺処分を実施
- ・ 令和8年度も実践的な防疫訓練を県下各地域で開催し、より実効性のある農場ごとの防疫作業計画へ反映(令和7年度:12回開催)



発生農場での殺処分(姫路市)

ウ 監視診断対策

- ・ 高病原性鳥インフルエンザは、侵入リスクが高いとされる渡り鳥が飛来する池に近接する **家きん農場でモニタリング検査**を実施
- ・ 豚熱は、市町や猟友会と連携し、感染源とされる **野生いのししの検査体制を構築**し、豚熱ウイルスの浸潤状況を把握
- ・ 異常家きん・家畜発見の通報時には、閉庁日にも **緊急立入検査体制を確保**



鶏からの血液採取

IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

(2) 牛伝染性リンパ腫対策の推進

- ・牛の慢性疾病である**牛伝染性リンパ腫**は、**全国の発生頭数が増加傾向**
- ・県では、本病の清浄化に向け、平成30年度から**但馬牛繁殖雌牛の全頭検査により感染状況を把握**し、感染牛の隔離飼育や優先的な淘汰など**対策を進め、発生頭数は減少傾向**

牛伝染性リンパ腫の発生状況 (頭)

年次	H27	R1	R6	R7
全国	2,869	4,113	4,420	4,594
但馬牛	41	64	33	23

※ 農林水産省「届出伝染病発生年報」、畜産課調べ

2 畜産物の安全性確保

(1) 農場HACCP*1を活用した衛生管理体制の向上

- ・家畜保健衛生所が中心となり、農場において危害要因の管理項目を設け、継続的に監視・記録を行う**農場HACCPの実践や認証取得を推進**
- ・動物用医薬品販売業者や獣医師に対して、**動物用医薬品の適正な販売と使用を指導**

(2) 畜産GAP*2の実践と取得推進

- ・畜産経営の持続性を確保するため、食品安全・家畜衛生に加え、環境保全や労働安全、アニマルウェルフェアに配慮した生産工程管理や改善の取組である**畜産GAPの実践や認証取得を推進**

*1 Hazard Analysis and Critical Control Point:危害要因分析重要管理点

*2 Good Agricultural Practice:農業生産工程管理



農場HACCP認証を取得した肉用牛農場(丹波市)

県内の認証取得状況 (農場)

区分	肉用牛	採卵鶏	豚
農場HACCP	2	1	1
畜産GAP		4	